くすの木通信

三高だより第197号

「発表する機会があるから伸びる」

教務課長 嘉村 良子

4月に267名の新入生を迎え、全校生徒725名の令和5年度がスタートしました。新しい環境にはもう慣れて、適応できているでしょうか。特に1年生は、初めてのことばかりで戸惑う場面もたくさんあるでしょう。肩に力が入った状態で緊張感を持った毎日かもしれませんが、軌道に乗るまでは継続して頑張ってみましょう。学校生活を充実させるためには、休息もうまくとらなければなりません。休息は、体や心を休めるためのものです。ゲームやスマホに時間を取られ、かえって疲れを溜めてしまうような過ごし方はおすすめできませんし、そのような状態は休息とも息抜きとも言えません。自分で決めた、適切な範囲内を守って、使用するように心がけましょう。

「発表する機会があるから伸びる」

学校は、集団の中で学びを深める場です。一人で勉強するのは違う特徴がたくさんあります。教科書に書かれている内容等について、個々の考えをペア・グループ・全体場で発表し合ったり、意見の交換を通して互いの考えを深め合ったり、授業の内容を踏まえながら何度も教科書を読み返したりするなど、一人ではできない幅広い学習のバリエーションがあると思います。授業という場で、誤りや失敗を恐れずに『発表する機会』を大切にしてください。得意かどうか、興味を持てるかどうかに関わらず、目の前の活動に真剣に取り組みましょう。そして、一つ一つの授業を実りあるものにするためにも、家庭での学習（宿題）は毎日欠かさずやりましょう。家庭学習時間の目安は、3時間以上です。学年が上がるごとに学習内容も高度になりますので、量だけでなく質も高めて学習に勤んでください。予習→授業→復習のサイクルを早く確立させ、「よく分かる楽しい授業」が受けられるよう、頑張りましょう。

高校生の3年間は、これからの人生の進むべき方向を決める大事な3年間です。忙しい毎日を充実させるために、自分の全力をこの3年間にぶつけてみましょう。もちろん勉強だけに限りません。何事にも全力で取り組んでみて、成功したときには喜び、更なる高みを目指しましょう。時に失敗してしまったとしても、やり直すチャンスを探し、現実に向き合う経験からは多くのことが学べます。あきらめず、継続する姿勢が大切です。まだ、一年は始まったばかりです。明るく前向きなみなさんの頑張りを期待しています。

「100周年を迎える三島高校のみなさんへ」

生徒課長 児玉 信也

私は、今から31年前の1992年4月から10年間、三島高校に勤務していました。当時の三島高校は1クラス45人学級で1学年12クラスあり3学年合わせて、ほぼ定員に近い1600人を超える生徒が在籍しており、愛媛県下で1番のマンモス校でした。

その当時の校長先生が、70周年を前に三島高校には校訓がないので校訓を創ろう、とできたのが「学び鍛えよ 歴史を刻んだ くすの木とともに」でした。校訓と言えば固いイメージですが、当時としては斬新な校訓が設定されたのを覚えています。10年間勤務する中で、定時制・商業科・普通科の担任を経験し失敗を繰り返しながらも、素直で明るい生徒に恵まれ充実した学校生活を過ごすことができました。

またいつか、三島高校に帰ってきたいと思いながら5年前に再び勤務することができるようになり、通算16年目を迎えることになりました。そして、今年は100周年を迎える記念すべき年です。地域に根ざした高校として、私自身地域の一人として三島高校のこれからの発展を願い、何か貢献できることがあればと過ごしています。

生徒のみなさんには、この三島高校の3年間があったからと思えるように、これからの経験が未来の自分につながることを信じ、応援していきたいと思っています。